

議 長 受付番号第5号、齋藤永君の一般質問を許します。登壇願います。

10番 齋 藤 議長の許可が出ましたので、一般質問をさせていただきます。受付番号第5号、質問議員、第10番 齋藤永。件名、再生可能エネルギー等について。

本年第1回定例会でお聞きしてから時間が経過していますので、次の点について質問します。

1、再生可能エネルギー協議会の活動状況及び地域における再生可能エネルギーの利用等の状況。

2、健康福祉センターへ設置したまきボイラーのエネルギーサイクルの効果検証。

3、再生可能エネルギーの利用等の促進に関する条例等の理念を新松田駅前開発にどう反映させるのか。

以上3点、よろしくお願いいたします。

町 長 それでは、齋藤議員の御質問に順次お答えをいたします。

まず1つ目の質問にあります、再生可能エネルギー協議会の活動状況につきましては、令和3年度は10月に緊急事態宣言が解除されたことに伴い、ようやく10月13日に協議会の下部組織であるワーキンググループを開催し、12月21日には令和3年度第1回目の協議会の開催を予定をしております。今後、新型コロナウイルス感染状況を見ながら、再生可能エネルギーの利用等の方針の策定等に向けた議論を行ってまいります。

続いて、地域における再生可能エネルギーの利用状況につきましては、町の施設といたしましては、松田中学校、旧寄中学校、寄小学校、松田幼稚園、寄幼稚園といった学校関連施設、健康福祉センター、町消防団の詰所に5か所ほど。地域集会施設4か所の屋上に合計114キロワットの太陽光発電設備を設置し、そのうち松田中学校、旧寄中学校、寄小学校、健康福祉センターには合計35キロワットの蓄電池も併せて設置してまいりました。また、松田中学校校舎の照明と、町内防犯灯のLED化、生涯学習センターの空調設備の電力化と照明LED化や健康福祉センターへまきボイラーの導入などにも取り組んでまいりました。また町民の皆様向けといたしまして、住宅用太陽光

発電設備や省エネ給湯器、まきストーブ及び電気自動車等の導入に対する補助金制度を設け、再生可能エネルギーの利用等の促進を図っております。2050年二酸化炭素排出実質ゼロの実現に向け、地域における再生可能エネルギーの利用並びにエネルギーの使用の節約及び効率化の促進は不可欠でありますので、今後も町民・事業者・町の連携のもと、再生可能エネルギーの普及を促進してまいります。

続いて、2つ目の御質問にお答えいたします。健康福祉センターのまきボイラーにつきましては、8月より運用を開始しております。令和2年度の1日平均の灯油使用料65リットルと比較し、運用開始後の今年度の1日平均45リットルとなる見込みであり、1日当たり20リットルの削減を見込んでおります。これを二酸化炭素排出量に換算いたしますと、1日稼働当たり50キログラムのCO₂削減となり、健康福祉センターのボイラー設備から排出される二酸化炭素が約30%削減されることとなります。また、まきの製造につきましても、寄地域において町内の材の活用に向けた準備が進んでおり、年度内にはまきの納品を開始できる見込みとなっております。まだ運用の初期段階であり、1年を通したデータがございませんので、今後も実際の運用データを取り、導入効果と二酸化炭素排出量の削減率向上について、しかるべきときに御報告したいと考えております。

続きまして3つ目の御質問にお答えを申し上げます。再生可能エネルギーの利用等の促進に関する条例では、第3条で、3つの基本理念を定めております。この基本理念を新松田駅前開発にどう反映されるのかという御質問にお答えいたします。

これからの日本社会はSDGsの取り組みを基本とし、脱炭素に向けたまちづくりを推進していかなければなりません。例えば、オフィスや店舗、住宅など、再生可能エネルギーを利用した設備の導入、省エネ化及び施設間でのエネルギーの融通など、効率化の推進。地域に分散している施設の集約化、公共交通機関の利用とパークアンドライドの促進、カーシェアリング、ヒートアイランド対策や生活環境への配慮としての緑化の推進などが考えられま

す。今年度より測量委託を実施しておりますが、今後、広場整備や集約施設整備事業の進捗に合わせて、持続可能な駅周辺の施設として整備を行うためにも、再生可能エネルギーの利用や省エネ対策を含めた駅周辺整備について検討をし、事業推進してまいりたいと考えています。以上でございます。

10番 齋 藤 お答えありがとうございました。それでは、まず1つ目から。活動状況等のお答え、ありがとうございます。その活動の中にですね、お答えの中に、町民向けの住宅用太陽光発電設備や省エネ給湯器、まきストーブ、電気自動車導入による補助金制度を設けましたとお答えがありましたけれども、その辺の利用状況はどのようになっているところか。

環境上下水道課長 令和3年度の現在の状況でございます。まず、スマートハウス、太陽光につきましては5件の申請がございます。その他、家庭用ヒートポンプ式給湯器に換えられたという方が1件ございます。電気自動車が1件、まきストーブは2件の申請がございます。以上です。

10番 齋 藤 ありがとうございます。まきストーブ1件…2件。まきストーブって、煙突をつけなきゃいけないんですよ。新しく、今いるうちに何かこう、そこに穴開けて煙突つけたりするっていうのって、なかなか勇気がいるのかなと思うんですけども、その辺でのつくり方の質問とかっていうのは来てるんですかね。

環境上下水道課長 特に質問は受けてございません。

10番 齋 藤 ありがとうございます。皆さん、そうじゃないですかね。自分の家に穴開けて煙突つけるっていうときに、ちょっと抵抗がありませんかね。なかなか、まきストーブをつけていくのは難しいのかなって部分が感じられるんですけども。2件あったということについては、どのぐらいの家かちょっと分かりませんが、これから新規で家を建てるのに、その辺のまきストーブの利用をいかがですかっていうこともやっていかれることなんでしょうか。

環境上下水道課長 町には、このような補助金があるということなんですけど、まきストーブ、今、世の中が環境の関係で、どんどんそういう新たな住宅になりつつあるんですが、逆にですね、そういうふうになればなるほど、まきを使ったりって

いう、昔ながらのそういうところに魅力を求める、そういう方もいらっしゃいます。そういう意味で、まきストーブ、環境にも優しいということがございますので、今後もまきの需要というのは全くなくなるっていうわけじゃなく、ある一定の需要はあるというふうに考えております。

10番 齋 藤 ありがとうございます。まきのような、同じもので、廃材とかでつくるペレットストーブですか、今その辺のが出てきているって、ちょっと聞いているんですけども、あまり煙突も、あれ何か、空気浄化するような煙突をつけてやるということを聞いているんですけど、その辺の情報は入っておりますか。

環境上下水道課長 すみません、情報は入っておりませんが、先日、福祉センターのボイラーをちょっと見させていただきました。そうしたら、特に煙突からですね、黒い煙がもくもく出ているということもなく、あと、最終的に燃えた後の灰ですか、予想よりもですね、ここまで3か月ぐらいたっているところなんですけど、実際このくらいしか、まだ灰が出ていません。予想以上にですね、そういうふうな灰が出ないとか、煙が出ないっていうようなことを確認しました。以上です。

10番 齋 藤 分かりました。まきストーブですと、かなり二酸化炭素というか灰が…煙ですか。それが出るというのも聞いておりますし、新しい…今造っちゃったうちの中に煙突作るのはちょっと難しいのかなと感じるんですけど。ペレット、これからもちっと…そっちも入れたほうがいいんじゃないかなと感じるところなんですけど。その辺はいかがなものでしょうか。

環境上下水道課長 今の件につきましては、今のところはペレットの話は出てませんが、いろいろな、まきだけではなく、環境にいい話というのは今後検討してまいります。以上です。

10番 齋 藤 ありがとうございます。時代が変わると、スマートハウスでいろいろと太陽光使った、新築はそういうのでいくと思いますし、自動車もガソリンを使わないで動くように、自分のところで充電するようなスマートハウスの設置が主になってくるとは思いますけど、一遍にこの町の家をそんなに変えてくる

というのはとても考えられないので、今ある人たちに、せめて少しでも二酸化炭素の排出を抑えていただく。石油を使わない。そういう状況下をつくっていけるような仕掛けをしていただければと思うんですけど、その辺お願いしたいと思います。

それとですね、この寄地区にですね、もともと令和2年の8月20日に臨時議会があったときに、町長の御答弁の中に、寄地区が孤立しないようなこと、またそこで暮らす人たちが安全・安心に暮らせる。そういうことを考えたときに、再生可能エネルギーをやり出したというお答えを前に頂いてるんですよ。その後に、寄地区の安心・安全。この辺が、例えば最近天候不順によって一時孤立したときがあって、そのときの質問の中にも、そういうものを防いでいくということがお答えに頂いております。その中で、また…そのときは台風19号のときでしたけれども、ちょっと前にですね、246が崩れ、川向こうの711でしたっけ。反対側は。あちら側も川があふれて、寄は全く孤立した状態が生まれたと思うんですけど。再生エネルギーだけで寄の安心・安全が保てるかという、やっぱりその辺、道路の状況等を国や県のほうにもう少し言っていて、たまたま何時間後に復旧をかかったからいいとは思いますが、その辺の安心・安全も一緒に寄地区に対して対応していただけないかなと感じるところですけども、そういったお考えはいかがでしょうか。

参事兼まちづくり課長

まずですね、寄地域が孤立してしまったというお話でございますが、エネルギーの話より前にですね、そういった事案が発生しないことがまず一番大事なことはないかと思っています。先週、その前の週とですね、町長とともにですね、横浜国道事務所並びにZoomで国土交通省の政務官、また道路局長さんとですね、お話をさせていただきまして、246バイパスの開通に合わせて、その先の松田の地域の部分の防災対策についても強化をお願いしたいというお話をしてまいりました。今の齋藤議員のおっしゃってるソフト面での安全・安心の、例えば電力の供給であるとか、そういったことも当然大事でありますし、いろいろなことを検討していかなくちゃいけないと。それに合

わせて、ハードの部分で国ができる、県ができることをやっていくように、町としても要望してまいります。以上です。

10番 齋 藤 ありがとうございます。最近はですね、天候がやたらと雨降ったり、毎日のように地震がきてた状況が続いています。いつまた崩れたり、停電になったり、住民は不安にかられるのかなと感じているところでございますので、スピーディーにやっていただいたということは、本当に感謝するあまりです。それから今後、その辺のことを具現化していつにいただきたいと思いますので、対応をよろしく願いしたいと思います。

それでは2番目の件ですけど、まきボイラー、エネルギーの交換は、検証まだ、8月から動いただけで、そんなに検証、出てないということでございます。これは今後また報告していただけるということですので、その辺の報告をお願いしたいとともに、ただここで石油が世界的に上がってると思います。今までの予定していた試算とかなり違うのかなと思うんですけど、その辺はいかがなものでしょうか。

福 祉 課 長 健康福祉センターのまきボイラーの燃料費の件でございますので、私のほうから御説明をさせていただきます。齋藤議員おっしゃるように、現在世界的な燃料費の高騰ということで、当初私どもが想定していたのは、リッター90円。上がっても90円だろうと。当時、昨年8月…令和2年の8月に議会の皆様に御説明をしたときには、灯油1リッター70円台だったと記憶しております。ただし、やはり変動があるので、90円ぐらいまではということで試算をさせていただいて、御説明をさせていただいたところでございました。本当に申し訳なく思っております。想定外でございまして、今106円と。106円ぐらいまで今上がっているような状況でですね、確かに厳しゅうございます、ただその中で、ボイラーマンさんの方をお願いをして、なるべくですね、お湯の温度を見ながらまきを使っただいて、経費の節減に努めているところでございます。予算的にはですね、ちょっとまだ幾らになるかというのは4か月間でございますので、今の時点で足りないということはないんですけども、年度末に向けてこれから寒くなってくるので、今…今2回、1日2

回燃やしてるんですけども、それを時間を見ながら、温度を見ながら3回に増やして、なるべく灯油の使用量を減らしながら、CO₂の削減も含めて運用をしまいたいというふうに思っているところでございます。以上でございます。

10番 齋 藤 分かりました。想定外に石油が高くなってきて、国が元締めにお金をつぎ込んだとやってますけど、なかなかまだまだ変わってこない状況だと思いますけれども。ただ、ここで今コロナ禍ですので、使用量が少ないから1日2回で回しているのかなという部分もあると思うんですけど、使用者数が増えてくれば、それなりにお湯の冷める温度も早くなってきたりもするんじゃないかなと考えますけれども、その辺、現時点で今コロナで、3年前と2年前、今その辺の利用者数の変化、その辺は分かりますかね。

福祉課長 申し訳ございません。正確な数字を申し上げることができないので申し訳ございません。ちょっと今、手元にないものですから。時間的にはですね、5時までだったところを、今4時に閉めさせていただいております、コロナで、たしか、私の記憶で申し訳ございません。一番減ったときには、当時の利用者数から3分の1ぐらいまで利用者が減ったところがありました。ただ、今また少し戻ってきまして、11月はですね、600人…600人ちょっとの、1か月で、600人ちょっとの利用者があったところでございます。これ、例年ですと1,500とか、月にもよりますけども、2,000近い数字があったんですけども、今が600…500か600ぐらいの月の人数で推移しているところでございます。以上です。

10番 齋 藤 分かりました。まだまだ通常じゃなくなっているんで、その辺でコロナで利用者が少ないから、数字もどちらかと言えば、まともに出てない状況だと思います。これからですね、まだ年明けてから、現状は今抑えられている状況ですけども、コロナの件が。また、オミクロン株とかというのがまた世に出回ってきて、今。あれ、空気感染をしてくるような話も出ておりますし、今後自治体や行政が行っている施設にですね、そこをチェックする機能がどんなものがあるのかよく分からないんですけども、国としては対象、

水際で抑えるということで外国人入れまいとかとやってましたけども。そう
いったもの、施設に来る人たちのチェックですか。その辺を全てやっていか
なければいけないと思います。また、今後桜まつりもやるとお聞きはしてお
りますけれども、昨年は中止にしていた中において、かなり海外の方が、在
日の海外の方だと思いうんですけど、ものすごく町内を歩いていたんですよ。
いつ、どこで、どんなふうに来るか分からないですし、どこか…44人のクラ
スターも出てましたよね。群馬県でしたっけ。そんなものがいつ起きるか分
からないので、その辺の対処の仕方、住民への対応の仕方、その、よそから
来る人への対応の仕方、その辺は何か考えているところがあるんですか。
(私語あり)

福 祉 課 長 御質問ありがとうございます。確かに、現在オミクロン株の感染が大変危惧
されているところでございます。国内においても第6波ということで、大変
危惧されているところでございます。健康福祉センターのお風呂に限って言
えばですね、やはり高齢者の方が利用されるところでもございます。入り口
での通常の感染対策には終始してしまうんですけれども、そのこのところをで
すね、いま一度徹底させていただいて、健康福祉センターで感染というよう
なことがないようにですね、十分従業員のほうにも周知をさせていただいて、
また感染症対策の感染拡大に向けて徹底してまいりたいと思います。以上で
ございます。

10番 齋 藤 ありがとうございます。どんな状況でというのが分かりませんが、再生
エネルギーからお風呂のほうにいつて、お風呂がそういう形で万が一うつっ
てしまうとね、問題がありますので、その辺ちょっと関連でお聞きさせてい
ただきました。対策は万全にしていきたいと思います。

それでは3つ目ですけれども、新松田駅開発にどうされるかということで、
省エネ対策を含めた駅周辺整備についてを、そういった形で検討していきたい
というふうにお答えですけれども、まだ何も決まってないから進まないと思
うんですけど、町からあそこにいろいろな施設を造ろうとしてますけれども、
その辺の再生エネルギーを使った施設じゃないとだめだよというような

ことは、ディベロッパー等に話をすることが可能なものなんですか。その辺はいかがですか。

参事兼まちづくり課長 御質問ありがとうございます。当然ですね、議員おっしゃるとおり、これからの計画でございます。今おっしゃられた、集約施設等の建築に伴いましては、当然、民間の事業という形、組合施行になります。そういった中で当然ですね、今の時代であります。再生可能エネルギーを基準としたり、またですね、熱効率のいい施設、遮温とかですね、そういった熱を逃がさない仕組みであるとか、新しい熱の供給システムというのを取り組んでいる会社さんもいらっしゃいます。そういったものは、当然町としてはお願いしていく。ただし、予算の範囲でございますので、それにあまりお金をかけて計画が頓挫するということでも困りますので、一応話はしていきたいと考えています。以上です。

10番 齋 藤 ありがとうございます。これからね、町民の夢である駅前開発に入っていくかと思うんですけども、そういったところを、どちらかといったら注視しながら進めていっていただければと思います。

そこであと一つ、例えば裾野あたりがトヨタの都市ができますよね。あれも多分ものすごく最先端的な都市になると思うんですよ。東京から来たら、あそこに行くのに新松田で降りて行くか、JRで行くなら沼津のほうからあっちから回って行くか、この2方向しかないと思うんですけども。小田急線で来られたら新松田で降りてJR乗って、その都市へ行くと。そうすると、この当町が最先端都市の入り口としてのポジショニングになれるんじゃないかなと私は考えるんですけども。トヨタさんのどのような形でやられるのかちょっと分からないんですけども、そういったものを取り込みながら、新松田駅の開発をして、エコタウン的なもの、そういう再生可能エネルギー、SDGsをもとに、裾野の衛星都市的なポジションで、ある程度、駅を降りたら全く違うような感覚のものを造っていただくと、よそとは差別化ができる部分の一つかなと思うんですけども。この辺はどういうふうにしていくかということは、やっぱり町長の声を聞かないといけないかなと思うので、

そういうものに対して一つ、一言頂ければ。いいですかね。

町

長 せっかくですので、2つ目の質問の部分に対して、ちょっとだけお答えをさせていただきます。本当に、原油というかですね、あれは高くなってきている部分に関して、灯油も高くなっていると。だから、こういった時代が間違いなく来ると思います、これからは。ですから、やっぱり自家消費ですよ。地産地消で、やっぱり電力の地産地消もしなきゃいけないと思い、皆さん方に何とかですね、お願いをして導入にこぎ着けたというようなこともあります。ですから結果的には、使わなきゃいけない灯油を使わなければ、まきに変えることによってまきの単価は前と一緒にですから、その分町の負担が減ることなんですよね。だから、どんどんどんどんほかの灯油が上がっていても、とにかくまきの供給が100%までいかないですけどもね、初めのスタートのときは灯油を使いますから、それ以外のところでまきが使える…本当になってくると、ほかのきゅうきゅういってても、あそこの施設だけは継続して動けるという格好になりますから、そういう状況で、とにかく町の負担が予定どおりといいましようかね、負担がこれ以上かからないようにね、なるというふうに稼働していきたいというふうに考えております。

3つ目の話ですけども、まさに課長が話をした…というか、話をした後で、スマートタウンというのはもう当たり前の話ですよ。それにスーパーだとかというのをつけて、我々のまちづくりの中の、やっぱり環境に対しては中心にね、考えつつやっていかないと、やはり子供たちが最終的に松田町ってどういうところよという話したときには、誇れるような町にやっぱりしていかなくちゃいけない。そのためには、SDGsということで、今本当に小学校、中学校も学校の授業の中でも取り入れながら、また寺子屋でもやりながらやっているところでもありますので、我々一つ一つのほかの事業もそうですけども、常に環境にはやっぱり優しく、また当然人に優しいというのも当然ありますけども、そういったハードとソフトをセットにしたような取り組みの中でですね、やっていく。その一番の要望である駅周辺整備になりますから、そういった視点はまずもって、外すということはまず絶対ない取り組みだと

思いますから。その中で、齋藤議員もいろんな知見をお持ちですし、お知り合いもいらっしゃると思うので、様々な事業体…事業体というか、事業者等々御紹介いただいてですね、一緒にとにかくまちづくりができればなというふうに考えております。以上です。

10番 齋藤 町長ありがとうございます。どのようにやっていくかということの意気込み、方向性だけは分かりました。たしかですね、SDGsに賛同している企業さんには、SDGsのバッジ、町長もつけられていますけど、国や県から何か支給されてくるバッジがあるそうなんですけど、そういった企業をいかに利用というか、当町が駅前やるなり、寄をやるなりのことで、そういった基準をね、作っていくことも一つの手だてかなと考えるんですけども、SDGsに協力している企業があるということは御承知ですかね。そういった、何か違うバッジがあって、直接送られてくるらしいんですよ。そういった企業のみをリストアップしながらまちづくりを進めていっていただきたいと思うんですけども。駅前開発にも、多分そういうものの企業さん、呼んでほしいと思うんですけど。高橋参事、いかがですかね。

参事兼まちづくり課長 御提案ありがとうございます。おっしゃるとおりですね、これからの、今、町長申したとおり、未来をつくっていかうと思っていますので、いろいろ齋藤議員からも教えていただきながら勉強させていただきます、以上です。

10番 齋藤 どうもありがとうございます。高橋参事だけでなく、この町にいる皆さん、各課長さんがSDGsのもとにいかないと、町として全体で進まないと思います。全ての課長並びにその各セクションが、そういった形で進められるようにしていただきたいと思いますので、少し早いですが、これで質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議長 以上で、受付番号第5号 齋藤永君の一般質問を終わります。録画の操作の間、少しお待ちください。